令和７年度黒部市総合教育会議　議事録

開会年月日	令和７年11月25日(火)午前10時00分～午前11時38分
会場	黒部市役所 201・202会議室
出席者 （６人）	市　　長　武隈　義一 教 育 長　齊藤　　誠 教育委員　濱田　　賢 吉澤　浩司 村田　博史 松井　美之
出席職員 （16人）	＜市長部局＞ 総務管理部長　長田　　等 総務管理部総務課長　吉田　雅之 ＜教育委員会事務局＞ 教育部長　小倉　信宏 教育部次長・学校教育課長　桐　　義輝 生涯学習文化課長　牧野　恵美 スポーツ課長　田中　倫則 図書館長　舘野　敬子 学校教育班長　若島　　肇 こども支援課長　高野　正規 学校給食センター所長　松平真由美 ジオパーク推進班長　王生　　透 歴史民俗資料館長　幸林　理恵 教育センター所長　大前奈津子 学校教育課　主幹・班長補佐　奥村美奈子 学校教育課　主幹・課長補佐・庶務係長　山田　真澄
会議開始	午前10時00分
事務局 （学校教育課長）	只今から、黒部市総合教育会議を開催いたします。開会にあたり、市長からご挨拶を申し上げます。
市長	本日は総合教育会議を招集しましたところ、教育委員会の皆さまには、ご参集いただきましてありがとうございます。この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設置されております。この会議は互いに独立した執行機関であります。市長と教育委員会が、より一層強固な関係を構築して、教育行政に関してお互いが意思疎通を図り、共通認識のもと、教育を進めていくための場と考えております。例年この時期に、教育関係の重点施策、あるいは当面の課題について意見交換を行っておりますが、今年度につきましては、昨年に続き、不登校の関係について協議させていただきたいと考えております。市教育委員視察やその結果等も含め、忌憚のないご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。

事務局 （学校教育課長）	ありがとうございました。それでは会議を進めさせていただきたいと思います。進行については市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
市長	それでは、次第の３「協議事項」になります。協議事項は「不登校支援について」であります。事務局より説明願います。
事務局	（事務局から以下について説明） １　本市の不登校と支援の現状について ２　東京都墨田区の不登校支援について
市長	ありがとうございました。墨田区の視察につきましては、教育委員の皆さまも視察に参加されたとのことなので、参加しどのようにお感じになったか等、感想やご意見をいただきたいと思います。濱田委員におかれましては、都合により視察に参加できなかったとのことなので、他の委員の感想等をお聞きになり、感じたことやご意見をお聞かせいただけたらと思います。
吉澤委員	墨田区の視察研修に参加させていただきましたが、東京都からの支援、墨田区の財政措置等もあり、不登校に対する財政支援や、教員の配置等がしっかりとできており、すごいなと感じました。ではそれを同じように黒部市でできるのかと考えたのですが、少し難しいのかなとも感じました。墨田区では給食費無償化も行われており、少し格差を感じる部分がありました。不登校に対する対応では、未然に防ぐという部分にも大きく力を入れて取り組んでおられるということで、不登校になってしまった後から、不登校を解消するということが難しいからこそ、そうした力の入れ方をしていると感じましたので、黒部市も同じように、未然に防ぐ部分にも力を入れていかなければならないのではと感じました。
市長	ありがとうございました。他の委員の方も、お願いいたします。
村田委員	墨田区の視察研修に参加し、改めて勉強させていただきました。私が一番感じたことは、やはり財政的な支援がとても必要であることなのであるということでした。墨田区におきましては、三段階に捉えている、家庭・支援センター・学校という大きな３つのかたまりで、対策について捉えていると感じました。その中で、特に公的な場である学校内には、スモールステップルームとチャレンジクラスがあり、スモールステップルームでは、ゆとりを持ちながら支援できること。より進んだ支援として、チャレンジクラスでは、教科学習や進路指導を行える学級を設けており、支援の体制が整っていると感じました。特に吉澤委員の発言にもありましたが、不登校を未然に防ぐことに重きを置いているなと思いました。また、教育支援センターでは、子どもの成長に伴う、時系列における継続的な支援を行っており、子どもの育ちを大切にするということで、短期的ではなく長期的に子どもの育ちに応じて、母子・父子共に支援を行っていくということです。また、子どもの成長を見ながら長期的に支援を行うということで、子どもの立場にたった支援体制であると感じました。視察の中で私が最も気になったことなのですが、環境や空間に非常に配慮されているというなという部分でした。例えば相談室に丸や六角形の机が設置されているといったような部分です。空間につい

ては黒部市でも改造等を行っているとは思いますが、別の目的で使用されていた空き教室をそのまま使用していることも多く見られ、そういった部分の配慮が足りないのではないかと感じました。黒部市も様々な支援を行ってはいるのですが、墨田区との違いとして、まず市の教育支援センターでは、サポート、ステップの段階が明確ではない部分、また中学校における進路指導の部分が弱いというところが違うと感じました。先ほどもお伝えしましたが、チャレンジクラスのように、義務教育から巣立っていく子どもへの支援をどうするのかといったような、将来にわたり、対象の子どもの自己実現のために、今できることは何かということを、もっと大きな視点で、かつ細やかに対応していく必要があると思いました。そして改めて、教育には多くの財政的な負担が必要であることも感じました。

松井委員　　まずは視察研修に参加させていただき、ありがとうございました。他の委員の方々の発言にもありましたが、財政面の話として、墨田区のスモールステップルームの支援員は、週29時間の勤務が保障されているということでした。子どもたちも日によって調子の変動があると思いますが、そのような時にも、いつでもそこへ行けば誰かがいて支援を受けられる体制が整っており、よいことだと思いました。また、すみだ保健子育て総合センターが非常によい施設であると感じました。黒部市にも市役所には保健センターやこども家庭センターはあり、こども家庭センターには少し子どもたちが遊べる場所もあり利用しやすい場所にはなっているのですが、墨田区の保健子育て総合センターは１つの建物の中で、子育てから小学校・中学校に至るまでの支援がまとめられており、保護者として、何か困ったことや、分からないこと、聞きたいことがあった際に、ここに来ればどこか分かるところにつないでもらえる、といった部分が非常によいと思いました。黒部市にも教育支援センターやあおーよ等、様々な施設がある中で、施設についてもそうですが、連携という部分で、例えば教育センターへの相談とこども家庭センターへの子ども・子育ての相談のつながりというように、組織をうまく連携していけば、よりよいものになるのではないかと思います。私は発達障害の子どもやHSC（外部の刺激に敏感な性質を持つ子ども）の保護者と話をする機会があるのですが、そういった症状が不登校の要因のひとつになっているお子さんや、小学校に進学した際に、学校に通えるのかなといった不安を抱えているというご家庭もあります。そのような際に、保健センター・こども家庭センターと、教育支援センター・教育委員会が一緒になり、そういった子どもと、その父母の支援を行える状況がとても大切だと考えているので、そういった方向で連携していけるような黒部市になればよいなと思いながら、墨田区の保健子育て総合センターを視察しました。

市長　　ありがとうございました。それでは濱田委員に、事務局からの説明と、今ほどの委員からの視察の感想等を聞いて、どのように感じられたかお聞かせいただけたらと思います。

濱田委員　　ありがとうございます。皆さまの感想等に共通することとして、財政と連携について出てきたと思いますが、私もこの２つが大切であると感じました。私は子育て世代でありまして小学校の子どもがおります。学校の先生と話す機会も多

	いのですが、小学校に校内教育支援センターが設置されたことにより、週に１回・４時間、支援員の方が支援に来校されるとのことです。週１回ではあるけれど、これまでケアできなかったところまで支援をしてもらえるなど、非常によいというご意見を聞いています。財政面のことに関わってくると思いますが、もしこの支援員の勤務が、週１回から週に数回の勤務となれば、不登校を未然に防ぐことができるという考え方もあるのではないかと保護者や学校の先生と話しています。私が知っている子どもの中には、現在不登校となっている子どももいるのですが、そういった子どもも、教育支援センターほっとスペース「あゆみ」に通所することにより、とても生き生きしているということも聞いています。不登校ということ自体がネガティブに捉えられがちではありますが、私は決してネガティブなことだけではないと考えています。黒部市では不登校児童生徒が増えているという状況もありますが、今の世の中では、家庭内でも同じように、不登校は決してネガティブなものではないと考える方々もいると思います。そうであるとしたら、何かしらできること、何か手立てはないかなと、色々と考えています。連携の面では、演劇やクラッシック音楽の鑑賞、バレーボール観戦など市が係わる事業が多くあると思いますので、ほっとスペースに通所している児童生徒へイベントを周知し、参加を促し、実際に参加しそこで社会参加ができたとしたら、また学校へ行ってみようという気持ちになることもあるのではないかと思います。
市長	ありがとうございました。私から教育委員会にお聞きしたいのですが、未然防止に関して墨田区は力を入れているということと、財政面についてのご意見がありましたが、具体的に黒部市と墨田区では、未然防止や財政面についてどのような違いがあるのでしょうか。
事務局 （学校教育班長）	未然防止についてですが、対応については学校と学校に配置されている教員等が連携し行っているのですが、墨田区との違いとしては、墨田区は学校に配置されている教員の実数が非常に多いことから、既に不登校となってしまった児童生徒のみだけではなく、登校はしているが教室に入ることが難しいという児童生徒へも、対応ができているということを伺っております。黒部市では、小学校に支援員を週に４時間配置しておりますが、基本的に既に不登校となっている児童を中心に支援を行っており、教室に入ることが難しく保健室等ですごしている児童への声がけ等も行ってはいるのですが、墨田区のように十分な対応はできてはいない状況であるという点ではないかと考えております。
市長	人数だけの話ではないとは思いますが、仮に何名支援員を配置すれば、墨田区に近い状況になるのでしょうか。その部分が財政面とも関わると思うので、教えていただけたらと思います。
事務局 （学校教育班長）	現在、黒部市では、不登校の児童に対して、学習面も含めて対応を行うということから、教員資格を持つ方を配置しています。一方で墨田区の場合は、まずチャレンジクラスとスモールステップルームの２つの学級があり、チャレンジクラスには、黒部市でも行われている校内教育支援センターの支援員と同様の、教員資格を持った方が配置されており、不登校傾向にある生徒も含め、教室への復帰

に向けて意欲的な支援を行っているとお聞きしました。スモールステップルームについてですが、こちらは学校に登校できるが教室に入ることが難しい、しかしチャレンジクラスで学習を行うほどの学習意欲が整っていない生徒が対象ということで、黒部市でいうスタディ・メイトと同様の教員資格のない方を配置し、子どもの居場所を守ることを目的とし、全ての中学校に配置されているということです。今ほど市長より受けたご質問についてですが、具体的な人数ははっきりと何人とは言えませんが、本市では、不登校とは言えないが、このままでは学校へ登校する意欲が整わなくなってしまいそうな子どもに対する支援については、十分な手立てがなく、保健室への登校等を行っている状況です。

市長　　そうすると本市ではその対応についてはスタディ・メイトが対応するということでよいのでしょうか。それとも、また別の新たな支援等を考え、実行していくことになるのでしょうか。

村田委員　　今ほどの市長のご質問についてですが、私は子どもの状態によって、対応する人を選ぶ必要があるのではないかと思います。特に保健室へ登校している児童生徒がいる場合、本来の保健業務を十分に行えなくなるという状況があります。本来の業務をきちんと行える状況になるように、また、児童生徒の学習意欲を高め、将来の展望を考えることができるような支援を行えるように、専門の支援員を配置し、それぞれが本来の業務をしっかりと行えるようにすることが、特に中学校では必要ではないかと考えます。

市長　　ありがとうございます。予算措置ができるかどうかは別といたしましても、この場ではなくてもよいので、墨田区と何がどう違うのか、まずは教育委員会として、本来はこのような支援体制が望ましい、けれど予算が足りないため、このような現状であるなど、もう少し理想形を明確に教えていただきたいと思います。また、この墨田区の対応についても、全てが見本ではないと思いますので、そちらも含めて改めて教えていただけたらと思います。

話題は変わりますが、今年度の墨田区の視察では、不登校の未然防止について学びや気づきなど思うことが多々あったと思いますが、昨年の八王子市の視察では、不登校が一定の割合で発生したとしても、世の中に出たときに、支えられる側ではなく支える側になることができる学力の確保という面も大事だということで、その対象児童生徒の学力の確保について重視した対応を行っていたと思います。今年度は、黒部市においても是非支援員が必要だということで、支援員４人を配置しました。今回の墨田区の視察で、学力の確保の面において、もう少しこうあるべきだ等、感じたことや思うことがあったか、改めてご意見をお聞かせいただきたいと思います。

村田委員　　八王子市の対応についてですが、学校で学ぶというところの、いわゆる校内別室には地域の方々が配置されていました。コミュニティ・スクールという制度が開始されており、地域の多様な人材が学校内にて指導を行うことができることから、子どもたちの将来への展望という意味においても、学校の教員以外の人に接することができるというのは大きなメリットがあるというのが、昨年の視察で感じたことです。今回の墨田区の視察で感じたことですが、１つのセンター内で、

子育てから小学校・中学校に係る問題への対応が行えることは、親にとって必要なことかもしれないし、よいことであると思いましたが、家庭・学校・図書館という施設の職員間のコミュニケーションができるネットワークの強力化が必要なのではないかと思いました。より強力なものにするために、例えばテレビ電話や専用電話のようなものを駆使し、定期的にコミュニケーションを図れるようなシステムを構築するということが、やはり必要ではないでしょうか。個々を結ぶためにはネットワークの強化、連絡網の整備を行い、情報を共有することが不可欠であると思う中で、保護者と子ども、子どもと支援員、そして学校内での状況について、絶えず情報を共有しながら対応していくことが大切だと思います。目に見えるようなものではありませんが、そういった部分への投資は大切だと思います。10年後、20年後の子どもの将来を踏まえ、人としてどう生きていくのかといったことを含め、支援や教育を行っていけたらよいのではないかと思います。

市長　　ネットワークの構築についてのご意見ありがとうございました。他にありますでしょうか。

松井委員　　私は昨年度の八王子市の視察には参加していないのですが、学力の面について考えると、今年度から黒部市の小学校に校内教育支援センターが開設され、教員が配置されているということは、子どもの学習を見るという面でとてもよいことだと思います。心の部分や学ぶことに慣れていくことへのケア・対応も必要であると思いますが、子どもたちの中には、「ここでなら勉強ができる」「ここでこんなことを学びたい」「ここが好きだからがんばりたい」と思っている子どももいます。将来のことを考えていくと、教員が配置されていることはとてもありがたいことだと私は感じています。そして、墨田区の視察で感じたことですが、中学校内にスモールステップルームやチャレンジクラス等の部屋が設置されていることが、とてもよいことだなと思いました。富山県では相談室にカウンセリング指導員を配置し、カウンセリング等を行っているのですが、カウンセリング指導員は、子どもの心の部分への対応だけではなく、保護者への対応や、ほっとスペースのような校外の支援センター等との対応など、授業は行っていないのですが、それ以外の対応で多忙であると思います。中学校の場合、将来の進路を考えた場合に、専門的に授業・学習を見てあげられる方の配置があれば、将来の進路に目を向けていくことができるのではないかと思います。私が中学校で勤務していた時も、やはり、カウンセリング指導員の方は、学習以外の対応で多忙となり、学習の面を見ることが難しかったので、校内で時間の空きがある教員にお願いをして、学習面を見ていたということがありました。中学校には相談室があるからそのような支援の部屋はいらない、大丈夫、ではなく、学習面もしっかり見ていけるような場所や人員の配置があればよいのではないかと思います。

市長　　中学校に学習面に特化した施設や支援員の配置があればというご意見をありがとうございました。

吉澤委員　　私は教員として従事していた経験がないため、分からないこともあるのですが、墨田区の例を見ると、サポートをするに当たり、支援員に教員資格は必須なのかという思いもあります。大勢の方で子どもたちを支援していくという見方を

	すれば、教員資格のない方にも支援をお願いするという進め方も一つの方法ではないかと思いますが、コミュニケーションをとったり、という面ではよいのかもしれませんが、支援室で学習を行うとなった際には、やはり教員資格のある方に指導をお願いすることが必須なのかなとも思います。私としては、墨田区の在り方も一つのよい方法なのではないかと感じています。そして、墨田区の視察の際に、どれくらいの学力を身につけさせていくといった目標等はあるのかと質問をさせていただきましたが、特にそういった目標等はないとのことでした。その部分については昨年の八王子市とは異なる部分なのではないかと感じました。
市長	支援員の教員資格の有無に対する思いや、墨田区の学力面に対する考え方を教えていただき、ありがとうございました。
濱田委員	私も教員として従事した経験がないため、分からないこともあるのですが、令和７年度から校内教育支援センターが設置され、支援員が週１回来校するという支援事業が開始となりましたが、学校の教員からとてもよい支援だと思っているということを聞いています。その中でもやはり、学習面のサポートを行ってくれるというところが、非常によいことだと言っておられました。この支援事業を今年度開始できたことはとても素晴らしいことだと感じています。また、支援員とスタディ・メイトの役割の違いや、限られた人員や予算の中で支援員増員の難しさ等を含め、限られた資源の中で支援をしていくための方法を研究して、黒部モデルという形を考えていくことも大切なのではないかと感じています。
市長	ありがとうございました。ここで私からご紹介したいものがあります。「黒部市子育て支援ネットワーク事業交流会」という資料があると思いますが、これは、市民福祉部こども支援課が主となっている事業となります。教育に限らず、様々な子育て支援の分野において、黒部市には支援を行う団体が複数あるのですが、その団体のネットワークを構築していくため、最初の段階である顔合わせの会議を開催しました。その会議内で決定した共通ハッシュタグがあるのですが、黒部市子育て支援ネットワークに登録していただいた団体が、「＃黒部子育て支援ネットワーク」と「＃チームくろべ」の２つの共通ハッシュタグをつけ発信を行い、保護者の方等に活動を周知していく取組を始めています。現在、教育や小さいお子さんを対象とした市内の団体や自治振興会等、38の団体にネットワークへの登録の声掛けを行っています。子育て分野の主となるこども支援課は市民福祉部に所属しており、学校教育分野は教育委員会が主となるということ、また、子育てサークルの中には公民館を活用した周知を行いたいという団体もあるということで、公民館運営は教育委員会の生涯学習文化課が担当となります。ネットワーク登録団体間だけではなく、市も部署関係なく、部署間の連携もさらに大切にしていって欲しいということでご紹介しました。墨田区の教育センターも、全てが教育委員会所管ではないと思うのですが、内部の連携等はどうなっていたのか、教えていただけたらと思います。
事務局 （庶務係長）	墨田区の教育センターでは、相談があった際に、相談を受けた職員が、相談内容から対応できる所管を判断し、センター内にある教育支援センターがよいのか、子育て支援総合センターがよいのか、適した所管施設へ繋いでいたり、相談

	について、一つの機関だけで解決を目指すのではなく、ケース会議等を開催し、連携して支援を行っていると伺いました。
市長	ありがとうございました。
事務局 （学校教育班長）	追加で説明させていただきます。まず、墨田区教育センターについてですが、これは建物の３階にある施設の名称であり、建物自体は墨田区が運営している複合施設となります。複合施設になるのですが、子どもに関することを主とした施設であるように感じました。１階には総合案内や区民が使用できるラウンジ、未就学児に関する相談や健康診断に対応できる施設が配置されています。２階には保健所、４階には子育て支援総合センターが配置されている中で、教育委員会が所管となっているのは、３階の教育センターのみとなっています。教育センターには、黒部市では教育センター所長や指導主事にあたる方々が、墨田区の職員として配置されています。また、墨田区の会計年度任用職員として、教育センター内にあるサポート学級とステップ学級、それぞれの学級で支援を行う、教員資格を持った支援員が配置されています。３階に配置されている方々は教育委員会としての配置となっています。
市長	ありがとうございました。ここまでの議論を踏まえ、何かご意見等ありますでしょうか。
村田委員	黒部市子育て支援ネットワーク事業交流会の開催について市長からご紹介がありましたが、私はこの開催は非常に良いことなのではないかと思います。ネットワークに登録している支援団体が開催する行事等の発信を頻繁に行っていただきたいということと、いずれは子育て中の保護者も登録を行い、気軽に情報の共有を行うことができるようになれば、それがネットワークの強化ということになるのではないかと思います。実際に私の孫が県外に在住しているのですが、その市の支援センターの様な機関から、行事等の状況が、いつ、どこで、どんな行事がありますよと、LINEにて配信されています。状況の把握ができるということで、私の家の中でも非常に好評で、よい子育てのサポートができていて、人づくりがしっかりできている市であると感じています。先ほど別の委員からの発言にもあったかと思いますが、墨田区等の真似ではなく、黒部市独自の、黒部市に合ったネットワークを構築していくことがよいのではないかと思います。この事業が子どもたちや保護者の間に広がっていけば、大きく前進し、将来的には地域に広がり、子どもたちの心の拠り所となっていくとよいのではないかと考えています。
市長	事業についてご理解と応援ありがとうございます。他にありますでしょうか。
委員	（意見等なし）
市長	それでは不登校に関して、教育長よりお願いします。
教育長	先ほど「黒部モデル」や「黒部版」といった発言がありましたが、校内教育支

援センターに教員を配置したということが、黒部版にあたると思います。そういった配置を行うことにより、教員として子どもたちの話をしっかりと受け止めてくれる人、話をしても大丈夫な人、何がどのように困っているのかを直接聞き取ってもらえる人がいるということは、子どもにとって非常によいことであると同時に、その情報を教員がもらうことができるということも非常によいことであり、相互にプラスになるのではないかと、先ほどの委員のご意見を聞きながら考えていました。学力について追加で申し上げあげるとするならば、教員免許を保有されている方が支援員となっていることにより、学びの連続性が確保できるという良さがあると思います。スタディ・メイトによる支援ではなく、直接の指導が可能であることから、勉強のことや先生たちとの関係のこと等、本当に困っていることを言葉にして受け止めてもらえるということが可能であり、それはスタディ・メイトには望めないものであることであり、教員ならではの配置の良さではないかと思っています。それらが記録として残り、学校に伝えられ、次の対応に進んでいくということになります。令和７年度は小学校に支援員を配置させていただきましたので、今後は中学校の相談室についても充実を図るという意味で、中学校への配置も考えています。小学校で経験した支援員との関わりを、中学校へ進学しても、学校の先生ではないけれど、教員免許を保有している方が対応してもらえるとしたら、相談しやすい人がまた１人増えることになるのではと思います。実際、生徒指導主事やカウンセリング支援員の配置はあるのですが、日々の業務で本当に多忙であると伺っているので、教員免許を取得している方を配置できたら、とてもありがたいことであると考えています。そしてそれが不登校の未然防止という、不登校にならない手前でキャッチし、対応を行っていくということに繋がっていくのではないかと考えております。

市長　　ありがとうございました。それでは不登校については一旦終了とし、それ以外のことについてご意見等いただければと思います。

吉澤委員　　どこの自治体も同じだと思いますが、少子高齢化・人口減少が進んでいく中で、教育に対しては最大限の予算を割くことで、質の高い教育を続けていくことで、人が育ち、将来においても活気のある黒部市を作る礎になるのではないかと考えています。そういった中で、学校の統廃合の問題が、地域の方々等を含む大人の考えにより、進みづらくなっているのではないかと思っています。できるだけ早い段階で、市民の方々に方針を示すことで、やっと進みだしていける問題であると思っています。その中でこれは私個人の考えになるのですが、現在２校ある中学校を小学校とし、黒部市として小学校は２校、新設で１校の中学校を設置するといったような、大きな変化を行い踏み込んでいくことが、今後人口が減少していく中で、黒部市として質の高い教育を行うためにも必要なのではないかと、私の考えとして思っています。

市長　　ありがとうございます。かなり大胆な変化を伴うような考えでありましたが、また教育委員会の思いもお伝えいただけたらと思います。

村田委員　　ICTに伴う教育へのサポートについてなのですが、現在は子どもたちがタブレットを使用し学習していると思います。子どもたちの中には学校に行けず家庭や

支援センターにいる子どもたちもいると思いますが、そういった子どもたちにも、現在の学校の様子を知らせるために、担任がICT機器を使用し、プリントの作成や授業内容を送信しているという事例があると聞いています。そのような状況が続く中で、教員の多忙化については、非常に大きな問題になっていると思います。教員が持っている持ち時間がかなり重要なものとなるのではないかと思いますが、そこで教員免許を持った支援員を配置し、ICTを使った教育についても協力体制が取れるよう、人員の配置が行えたらよいのではという願望があります。特に中学校では、将来の進路や高校受験等に向けて、知識や教養を身に着けるためにも、そのような視点が必要になってくるのではないかと思います。日々の業務をいくつかICTで実行できるように、支援員等の配置について配慮いただけたらと思います。

市長　　ありがとうございました。来年度以降の支援員の配置については先ほど発言がありましたが、学校の統廃合のご意見について、教育委員会の考えをお聞かせいただけたらと思います。

教育部長　　学校の統廃合についてですが、社人研データを基に試算しますと、2032年までに1,000人規模の児童数になっていくということで、再編については検討していかなければならないと思っているのですが、各地区では現在、コミュニティ・スクールとして、地域と学校・学校と地域という思いで、地域の方々に学校に入ってもらい、様々な支援を一生懸命行っていただいておりますので、早急にという思いもあるかと思いますが、やはりそのコミュニティ・スクールの状況等を見ながら検討していかなければならないと考えております。地域性を見ていると、先ほどの委員のご意見にあったような、市内に小学校を２校・中学校は１校という形は、究極の考え方になると思いますが、それについては、庁舎内の他の部署の取組も見ながら、検討していきたいと考えています。

濱田委員　　先ほどもお伝えしたのですが、黒部市ならではの魅力ある資源を使った芸術・文化やスポーツの観戦等、様々なものがある中で、興味のある方だけに向けたものでは、とてももったいないと常に思っています。保育所や小学校等の子どもたちが科学館へ見学に行き、いろいろと感じてもらうというような事業の形があると思いますが、そういった形をさらに増やしていくことで、黒部市の魅力的な資源を有効的に活用し、連携が図れるのではないかと思っています。市長もご存じのとおり、例えば黒部シアターというイベントがありますが、なかなか他の市町村では開催できないような貴重なイベントだと思いますので、これをいかにして子どもたちに観てもらうか、そして観てもらうだけではなく、それぞれがどう思ったかをアウトプットするような時間を設けるとよいのではないでしょうか。学校とはまた異なる場での、情緒的な成長があると思っており、それは不登校の児童生徒にも同様と思っています。座学での勉強だけではない、特別な場での学びの機会が黒部市には数多くあると思います。本当に大切なことは学校の授業の場だけではないと思いますので、支援員の方や、ほっとスペースの指導員や相談員からの声がけやコミュニティ・スクール等の地域の方々にも携わっていただければ、ここだけにしかない黒部モデルの教育支援方法ができるのではないかと、個人的に考えています。

教育長	今ほど委員から、学校外での学びについてのご意見ありがとうございました。先日、黒部市の幼・小・中美術展が開催されたのですが、ある小学校の不登校の子が、支援員の方に手を引かれながら見学に来ていました。学校の１年生と２年生が一緒に鑑賞しましょうといったその中に、一緒にバスに乗って鑑賞に来たとのことでした。これが今、自分たちが望んでいる黒部モデルなのかなと思いました。校外学習の際に、支援員の方々のサポートがあることにより、支援を受けている子どもにとっては学習になっていると思います。作品を鑑賞する・どの作品が良かったか・なぜ良かったのかということをやり取りが行われている光景は、なかなか外に出ることのできなかった子どもが、教員免許を取得している方の支援を受け外に出ているという、とても良い支援なのではないかと思います。そこでもう少し、イベント等のアピールを行い、校外に出かけていくことができやすくなるような工夫は、これから行っていけたらよいのではないかと思いました。きっとその鑑賞に来た子は、帰宅後に家で保護者とその経験を話すと思います。そういった経験を積み重ねていくことが、不登校の未然防止にもつながり、子どもたちの学びの充実にもなっていると思います。また、その子だけではなく、学年全体が一緒にいることで、どこをどのように鑑賞していけばよいのかが理解できたり、普段接することのない先生とも関わりをもてたり、友達の話も聞くことができる等、大変厚みのあるよいタイミングであったと思います。先ほどの委員からのご意見も含めて、教育委員会でも今後様々な工夫を行っていけたらと思い、発言しました。
市長	ありがとうございました。他にありますでしょうか。
委員	（意見等なし）
市長	本日は多くのご意見をいただけました。いただいたご意見は、来年度以降に限らず、すぐに実行できるものは、すぐに対応していきたいと思います。
事務局 （学校教育課長）	ありがとうございました。最後に改めて市長よりご挨拶をお願いいたします。
市長	本日はお忙しい中ご出席いただき、本当にありがとうございました。繰り返しとなりますが、いただいたご意見を参考にし、今後の教育だけではなく、連携できる分野にも活かしていきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。
事務局 （学校教育課長）	どうもありがとうございました。以上で総合教育会議を終了いたします。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。 閉会